

## 別記様式第8号

### 鳥獣被害防止総合支援事業及び鳥獣被害防止緊急捕獲活動支援事業の評価報告（令和3年度報告）

#### 1 被害防止計画の作成数、特徴等

【瀬戸内市】

鳥獣被害防止計画は、作成数は2、令和元年度から3ヶ年計画で作成し、イノシシ、ニホンジカ、ヌートリア等を対象に被害の現状及び被害の傾向から被害の被害軽減目標を設定している。

【赤磐市】

赤磐市鳥獣被害防止計画は、令和元年度から3か年計画で作成し、イノシシ、ニホンジカ、ヌートリア、カラス等を対象に被害の現状及び被害の傾向から被害の被害軽減目標を設定している。

捕獲・防護・集落ぐるみでの対策の3点から被害防止に向けた具体的な取組を講じていく。

【高梁市】

過去の捕獲実績及び被害状況を踏まえ、依然として被害状況が深刻であると判断されるため、各対象鳥獣の捕獲頭数を増やす。

ただし、捕獲頭数及び被害状況に大きな変化が見られる場合は、その都度見直しを図る。

対象鳥獣 イノシシ、ニホンザル、ニホンジカ 計画期間 平成30年度～令和2年度

【浅口市】

鳥獣被害防止を図るため、「個体数管理（有害鳥獣の捕獲駆除）」、「被害防止（防護施設の設置）」の2点を中心に猟友会同士の連携や新たな猟友会員、農業従事者への駆除によらない被害防止の体制確立を目指している。

【里庄町】

被害防止計画は里庄町(里庄町鳥獣被害防止対策協議会)として1つ作成している。

被害防止計画の内容は主に町内全域を対象とした銃器及びわな等による捕獲である。

被害が発生した場合には、被害農家、晴れの国岡山農業協同組合等からの申請により、里庄町鳥獣被害対策実施隊員(対象鳥獣捕獲員)や駆除班において被害状況等の現地確認を実施し、周辺環境に応じた対策を講じるとともに随時駆除活動を実施する。

【奈義町】

平成31年度(令和元年度)から3年間を計画期間として奈義町全域を対象に作成している。 農林水産被害については、森林付近及び山間部を中心にイノシシ・ニホンジカ、果樹園や畜舎周辺ではハシブトガラス等による傾向となっているため、

被害軽減に向け防護柵を設置し、柵を活用して捕獲の効率化を図ることとしている。また、周辺市町村の連携した駆除活動や地域住民の被害防止意識を喚起する説明会や地区懇談会を推進する。

また、周辺市町村の連携した駆除活動や地域住民の被害防止意識を喚起する説明会や地区懇談会を推進する。対象鳥獣をイノシシ、ニホンジカ、カラス類を中心としてヌートリアやツキノワグマも対象としている。

#### 2 事業効果の発現状況

地域の体制整備、被害防止効果、捕獲状況、人材育成状況、耕作放棄地の解消等様々な角度から記載する。

【瀬戸内市】

瀬戸内市獣害対策セミナーを実施し、野生生鳥獣の生態と総合的な被害防止対策方法について指導啓発を行い、農家の防護意識の向上に繋がっている。

農作物被害が発生しないよう、①寄せない対策(集落環境整備)②入れない対策(自己防衛)③捕まえる対策(加害獣の捕獲)の3つの対策を正しい手順で総合的に行うようにしている。

【赤磐市】

防護柵に関しては、令和元年度から3か年で約87kmの設置を行い、設置した地区では被害が大きく減少した。しかしながら過去に防護柵を設置したのちに点検整備が行われていない地域では被害が発生しているという現状もある。

有害鳥獣駆除に関しては、3年間でイノシシ3、403頭、シカ1、024頭、ヌートリア595頭、サル53頭の駆除を行っている。着実に成果を上げてはいるが、出没回数や被害報告に変化は見られておらず、地域住民との

協力体制の構築や、駆除の担い手である猟師の確保・育成も必要である。

【高梁市】

緊急捕獲活動支援事業により対象鳥獣の捕獲頭数が維持されている。

【浅口市】

「地域の体制整備」では、地域や猟友会駆除班との捕獲体制の整備を実施し、「被害防止効果」では防護柵の設置や猟友会による駆除により被害防止目標を達成でき、被害防止や削減の効果が図られている。

「捕獲状況」では、年によって捕獲頭数は増減しているが、捕獲員が減少する中、駆除頭数を概ね増加させることができた。「人材育成状況」では狩猟者の増員確保を図ることから狩猟免許の広報を行い狩猟者の増員を図った。

【里庄町】

事業実施前(H30)と比較し、事業実施後(R3)までイノシシの捕獲頭数は年々増加した。

H30イノシシ捕獲頭数:23頭、R1イノシシ捕獲頭数:36頭、R2イノシシ捕獲頭数:68頭、R3イノシシ捕獲頭数:112頭

被害金額・被害面積については事業実施前(H30)は被害金額が194千円、被害面積が2.405haであったが、事業実施後(R3)は被害金額が93千円、被害面積が0.74haといずれも減少した。

【奈義町】

農作物等の被害防止に向け奈義町鳥獣被害対策実施隊による駆除活動を進めてきた結果、毎年一定数のイノシシ、ニホンジカが捕獲されることにより、被害が減少し営農意欲が維持され、個体数も減少傾向にあると考えられる。

#### 3 被害防止計画の目標達成状況

【瀬戸内市】

被害金額、面積とも目標は、達成出来なかった。

【赤磐市】

被害金額の目標については、平成30年度実績1、415万円から25%減の1、061万円を令和3年度目標として掲げていたが、結果的には42%減の832万円となった。

被害面積の目標については、平成30年度実績22.4haから25%減の16.7haを令和3年度目標として掲げたが、結果的には30%減の15.8haとなった。

要因としては、イノシシやシカなど獣類の侵入を防ぐための防護柵設置はほぼ全ての集落が実施しており、防護による対策が効果を発揮していると考えられる。

また、本計画の被害金額及び被害面積は農業共済に報告のあった圃場をとりまとめた統計情報であり、市全域を網羅する数値とは言いがたい側面もある。

次年度計画以降は、段階的に被害の状況を把握するための相対的指標の策定を検討する。

【高梁市】

目標を達成するためにはさらなる捕獲強化が必要である。

【浅口市】

被害全体の被害面積及び被害額は減少しており、計画より高い効果を得ることが出来た。

【里庄町】

被害の軽減目標(R3)を被害金額170千円、被害面積2.14haとしていたが、事業実施後(R3)の実績は、

被害金額が93千円、被害面積が0.74haであった。被害金額、被害面積いずれも目標を上回る結果となったため、目標は達成された。

【奈義町】

被害金額は目標1,200千円に対して実績1,556千円で達成率78.8%、被害面積については目標0.5haに対して実績4.05haで達成率-220%である。

4 各事業実施地区における被害防止計画の達成状況

事業実施主体名 (協議会名)	対象地域	実施年度	対象鳥獣	事業内容	事業量	管理主体	供用開始	利用率・稼働率	事業効果	被害防止計画の目標と実績						事業実施主体の評価	第三者の意見	都道府県の評価			
										被害金額(万円)			被害面積(ha)								
										目標値	実績値	達成率	目標値	実績値	達成率						
・瀬戸内市 ・瀬戸内市 鳥獣被害 防止対策 協議会	市全域	R元年度	ニホンジカ イノシシ ヌートリア カラス類 ヒヨドリ カワウ カモ	(推進) ・鳥獣被害防止セミナー ・電気止め刺し器 ・センサーカメラ	4回 2基 2基	・瀬戸内市 ・瀬戸内市 鳥獣被害防 止対策協議 会	R元年度	100%	○捕獲等に関する取組 箱わな等を導入し、瀬戸内市鳥獣被害対策実施隊による駆除捕獲を促進した。R3年度のイノシシ・シカの捕獲実績は、平成30年度から353%増の1,389頭(平成30年 393頭)に増加した。特に当市で被害の多いイノシシについては、平成30年度から365%増の1,032頭(平成30年度 282頭)に増加した。  ○防護柵の設置等に関する取組 令和元年度に年4回瀬戸内市鳥獣被害対策セミナーを実施し、野生鳥獣の生態と総合的な被害防止対策方法について指導啓発を行ったが、その後は新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、開催を断念し、鳥獣被害啓発動画を作成して周知を図った。また、瀬戸内市防護柵設置補助金(単市)の交付実績は、3年間の合計で防護柵設置事業の申請が442件あり、補助金額は合計で約28,000千円交付した。  ○集落環境整備等に関する取組 令和元年度より、自治会や集落で取り組む、農地及び集落回りの藪や茂みを刈りはらう集落環境整備事業を作成し、有害獣の潜み場や出没をなくす寄せない対策を促進した。						令和元年度においては、年4回瀬戸内市鳥獣被害対策セミナーを実施し、野生鳥獣の生態と総合的な被害防止対策方法について指導啓発を行ったが、令和2年度以降については、新型コロナウイルス感染症拡大の影響に伴い、啓発動画を作成し、周知を図った。鳥獣被害防止に係る市民の意識向上に繋がり、瀬戸内市防護柵設置補助金(単市)の交付実績は、3年間の合計で防護柵設置事業の申請が442件あり、補助金額は合計で約28,000千円交付した。また、箱わな等を導入し、瀬戸内市鳥獣被害対策実施隊による駆除捕獲を促進した結果、R3年度のイノシシ・シカの捕獲実績は、平成30年度から353%増の1,389頭(平成30年 393頭)に増加した。特に当市で被害の多いイノシシについては、平成30年度から365%増の1,032頭(平成30年度 282頭)に増加し、捕獲にも積極的な取組を実施している。さらに、令和元年度より、自治会や集落で取り組む、農地及び集落回りの藪や茂みを刈りはらう集落環境整備事業を作成し、有害獣の潜み場や出没をなくす寄せない対策を促進した。しかし、鳥獣の生息域の拡大から被害は増加傾向にある。今後、被害防止に向け、引き続き、防護と捕獲を両面からの取り組みを進める必要がある。	近年の野生鳥獣の生息域の拡大や生息数の増加により、被害の軽減目標は、達成出来ていないが、啓発セミナーや動画作成による市民の鳥獣対策の意識啓発から捕獲数の増加、侵入防護柵設置の増加などの成果も出てきている。一方で、被害も増加していることからこれまで以上に防護、捕獲の対策に取り組んでいただきたい。(備前局農畜産物生産課)	被害金額、被害面積共に目標達成できていないが、捕獲活動の強化により、捕獲数は年々増加しており、積極的な捕獲活動に取り組んでいると考えている。また、鳥獣被害の啓発活動で市民の鳥獣対策への意識改革にも取り組んでいる。引き続き、目標達成に向けて、担い手育成や地域を巻き込んだ防護と捕獲の一体的な対策に取り組んでいただきたい。				
	市全域	R2年度		・鳥獣被害対策啓発動画	2本					・瀬戸内市 ・瀬戸内市 鳥獣被害防 止対策協議 会	R2年度	100%	1,153.1	1,735.3				-186%	3.99	4.84	-20%
	市全域	R3年度		イノシシ(成獣) イノシシ(幼獣) シカ(成獣) シカ(幼獣)	319頭 206頭 128頭 2頭					獺友会 駆除班											

赤磐市 (赤磐市鳥 獣被害防 止対策協 議会)	R元年 度	イノシシ・シカ カ・ヌートリア・カラス 他	(推進) ・イノシシ・シカ捕獲用箱罠の導入 ・ニホンザル用中型箱罠の導入 ・小型鳥獣捕獲講習会 ・有害鳥獣対策セミナー ・くくりわなの導入 ・発信器の導入 ・受信機の導入 ・被害地域専門家緊急投入事業 ・鳥獣被害状況アンケート調査	5基 6基 1回 1回 20基 20基 8基 1式 1式	実施隊・ 地域住民	R元年 4月	・イノシシ・シカの主要2種の捕獲を推進するために新たに5基の箱罠を導入し、市内各所に設置。市内全域ではイノシシが916頭・シカが189頭捕獲され、各地の被害軽減に一定の効果を発揮した。 ・市内の特定の地域を中心にサル個体群による農作物被害が発生しており、群れの襲来による野菜・果物類の壊滅的被害が発生していることを受け、中型の箱罠を新たに6基導入。本年度は市内全域で13頭の捕獲に成功した。 ・小型鳥獣捕獲講習会を開催し16名が参加。制度全般に関することや捕獲のポイントや注意事項を説明し、捕獲に向けた支援を実施した。 ・有害鳥獣対策セミナーを開催し、190名が参加。「鳥獣被害対策として、わたしたちができること」というテーマの講演と併せ、「わな・防護柵実践セミナー」を実施し、わなや防護柵の有効な設置方法について説明し、捕獲・防除に対する支援を行った。	1,061	832	165%	16.7	15.8	116%	被害金額の目標については、平成30年度実績1,415万円から25%減の1,061万円を令和3年度目標として掲げていたが、結果的には42%減の832万円となった。 被害面積の目標については、平成30年度実績22.4haから25%減の16.7haを令和3年度目標として掲げたが、結果的には30%減の15.8haとなった。 要因としては、イノシシやシカなど獣類の侵入を防ぐための防護柵設置はほぼ全ての集落が実施しており、防護による対策が効果を発揮していると考えられる。 また、本計画の被害金額及び被害面積は農業共済に報告のあった圃場をとりまとめた統計情報であり、市全域を網羅する数値とは言いがたい側面もある。 次年度計画以降は、段階的に被害の状況を把握するための相対的指標の策定を検討する。	多岐にわたる対策に取り組み、成果を上げ、被害金額・被害面積ともに目標を達成した。 一方で、野生動物の生息域の増加、中型哺乳類やニホンザルなど、新たな獣類による被害の増加するなど、対策には、苦勞が多いと考えられるが、今後とも防護と捕獲が一体となった複合的な鳥獣被害対策に取り組んでいただきたい。 (備前局農畜産物生産課)	被害金額、被害面積ともに目標を達成しており、捕獲の強化や専門家による研修会等が成果として現れている。 最近ではカメラを活用したICT実証や、鳥獣被害地への専門家派遣なども意欲的に取り組んでいる。 今後も防護柵とわなの一体的な整備を進め、被害防止対策に取り組んでいただきたい。
	R2年 度		・イノシシ・シカ捕獲用箱罠の導入 ・鳥獣被害状況アンケート調査 ・被害地域専門家緊急投入事業 ・くくり罠実践セミナー ・アンケート調査結果報告会	12基 1式 12カ所 1回 1回		R2年 4月	・イノシシ・シカの主要2種の捕獲を推進するために新たに12基の箱罠を導入し、市内各所に設置。市内全域ではイノシシが1,285頭・シカが410頭捕獲され、各地の被害軽減に一定の効果を発揮した。 ・市内の農家約1,000戸を対象にアンケート調査を実施し、市内各地域の鳥獣被害の実態を把握。調査結果をもとに今後の対策方針を定める「赤磐市鳥獣被害対策行動計画」を策定予定。調査結果及び今後の方針については協議会総会にて報告会を実施した。 ・地域住民からの鳥獣による農作物被害報告に対して迅速に専門家を投入し、12カ所に専門家を投入した。捕獲・防護・追い払い・その他最適な被害対策を提案し、地域・行政・猟友会が密に連携して対策を実行することで、農作物被害の減少等に寄与した。 ・狩猟免許を取得して間もない初心者猟師を対象としたくくり罠実践セミナーを開催。くくり罠の作成、設置等について実物を用いて研修を実施。経験のない新規狩猟者の育成に寄与した。									
	R3年 度		・イノシシ・シカ捕獲用箱罠の導入 ・サル用中型箱罠の導入 ・カラス捕獲用罠い罠導入 ・カラス対策事業 (鷹匠、忌避音声発生装置による追い払い) ・被害地域専門家緊急投入事業 ・STOP鳥獣被害！集落連携事業 ・データ転送機能付きセンサーカメラ導入 ・有害鳥獣対策セミナー ・鳥獣被害状況アンケート調査 ・捕獲サポート隊賞金 ・捕獲サポート隊傷害保険	5基 1基 1基 1式 6カ所 1式 4台 1回 1式 1式 1式		R3年 4月	・イノシシ・シカの主要2種の捕獲を推進するために新たに5基の箱罠を導入し、市内各所に設置。市内全域ではイノシシが1,202頭・シカが425頭捕獲され、各地の被害軽減に一定の効果を発揮した。 ・サルの捕獲が一定量進んだ地域の近辺において、離れザルによる被害が散見されることを受け、サルの出没に合わせて機動的に移動できる軽量の箱罠を1基導入。全体の捕獲数は、8頭が捕獲された。 ・白桃のカラス被害を受け、捕獲用罠い罠を導入し、7羽のカラスを捕獲。 ・白桃のカラス被害を受け、鷹匠及び忌避音声発生装置によるカラス追い払い事業を実施。集落生産者より実際にカラスによる目立った被害はほとんど無くなったとの声が多数あり、非常に効果があったと考えられる。 ・地域住民からの鳥獣による農作物被害報告に対して迅速に専門家を投入し、6カ所に専門家を投入した。捕獲・防護・追い払い・その他最適な被害対策を提案し、地域・行政・猟友会が密に連携して対策を実行することで、農作物被害の減少等に寄与した。 ・STOP鳥獣被害！集落連携事業として対象集落にてイノシシ・シカ対策を実施。捕獲・防護・追い払いを軸に集落として自立的にかつ自走して対策推進していくよう支援を実施。今まで積極的に行えていなかった捕獲にも力を入れ、事業終了までにイノシシ2頭、シカ1頭の捕獲に成功した。 ・データ転送機能付きセンサーカメラを導入し、STOP鳥獣被害！集落連携事業での、地域のサポート隊員の見回り負担の軽減に活用した。 ・有害鳥獣対策セミナーとして、新規な猟師取得者を対象にくくり罠技能向上研修を開催し5名が参加。くくり罠の設置、保定・止め刺し等の手法やフィールドサインの見つけ方の研修を実施。経験のない新規狩猟者の育成に寄与した。									



高梁市(高梁市鳥獣被害防止対策協議会)	高梁市全域	H30年度	(緊急捕獲) イノシシ イノシシ(幼) ニホンザル ニホンザル(幼) ニホンジカ ニホンジカ(幼)	649頭 269頭 28頭 3頭 17頭 —	—	—	—	有害鳥獣駆除班員の活動しやすい環境を整え、捕獲活動の円滑化を図る。	1,600	1,833.40	40	35.74	有害鳥獣駆除班員による駆除活動を行っているが、目標達成するためにはさらなる捕獲強化が必要である。	積極的な捕獲活動により、被害金額は目標達成となったが、被害面積は目標達成には至らなかった。今後も捕獲と防護を組み合わせた一体的な対策と狩猟者の確保、育成の取組により、被害減少につなげて頂きたい。	再評価の結果、被害面積は目標を達成できなかったが、被害金額は目標を達成し、改善が見られた。また、被害面積の大半がイノシシ、サルによるものなので、それらに対する防護、捕獲の強化に取り組んでいただきたい。今後も引き続き、地域による防護や捕獲の対策に取り組んでいただきたい。	
	高梁市全域	R元年度	イノシシ イノシシ(幼) ニホンザル ニホンザル(幼) ニホンジカ ニホンジカ(幼)	2,047頭 276頭 53頭 1頭 27頭 —	—	—	—	有害鳥獣駆除班員の活動しやすい環境を整え、捕獲活動の円滑化を図る。	1,600	1,750.20	32	33.38	有害鳥獣駆除班員による駆除活動を行っているが、目標達成するためにはさらなる捕獲強化が必要である。			
	高梁市全域	R2年度	イノシシ イノシシ(幼) ニホンザル ニホンザル(幼) ニホンジカ ニホンジカ(幼)	1,874頭 334頭 70頭 4頭 36頭 —	—	—	—	有害鳥獣駆除班員の活動しやすい環境を整え、捕獲活動の円滑化を図る。	1,600	1,747	151%	32	33.34	有害鳥獣駆除班員による駆除活動を行っているが、目標達成するためにはさらなる捕獲強化が必要である。		-107%
	高梁市全域	R3年度	イノシシ イノシシ(幼) ニホンザル ニホンザル(幼) ニホンジカ ニホンジカ(幼)	1,730頭 266頭 101頭 4頭 37頭 1頭	—	—	—	有害鳥獣駆除班員の活動しやすい環境を整え、捕獲活動の円滑化を図る。	1,600	1,424.3		32	39.5	有害鳥獣駆除班員による駆除活動を行っているが、目標達成するためにはさらなる捕獲強化が必要である。		

浅口市 (浅口市有害鳥獣被害防止対策協議会)	浅口市全域	R元年度	(緊急捕獲) イノシシ ヌートリア ハシブトガラス ハシボソガラス	500頭 121頭 — —	—	—	—	・猟友会の構成員で組織されている有害鳥獣駆除班が旧町(旧金光町・旧鴨方町・旧寄島町)ごとにくりわな、捕獲檻、銃器により捕獲を行った。各駆除班の活動に対して市からの捕獲報奨金交付により、捕獲意欲の向上につながっている。駆除班が協力的であり、スピード感をもって従事して下さっている。	145	138.8	0.68	0.58	・被害金額、被害面積どちらの目標も達成することができた。 ・有害鳥獣駆除班員の高齢化による減少や有害鳥獣増加及び活動範囲の拡大により駆除班員一人ひとりの負担が著しく増加している。そのため、駆除しきれないエリアが増加している。近隣市町村との連携も含め、効率的な駆除活動を継続できる体制整備を行う必要がある。 ・被害防止には捕獲が最善という意識が根強く、加えて農業者の高齢化による耕作放棄地の増加等、構造的な課題も抱えており、各個人での防護柵の設置に対しては消極的な場合が見受けられる。集落柵など、地域をあげて共同での設置を進める必要がある。	積極的な捕獲活動により、被害金額、被害面積ともに目標を大きく達成できている。今後も、防護と捕獲を組み合わせた一体的な対策と狩猟者の確保・育成の取組により、被害減少につなげて頂きたい。	被害金額、被害面積ともに目標を達成しており、捕獲の強化が成果として現れている。有害鳥獣の増加や駆除班員の高齢化など課題もあるが、体制の整備を進め、今後とも捕獲強化に取り組んでいきたい。また、捕獲だけでなく、防護柵とわなの一体的な整備を進め、被害防止対策に取り組んでいただきたい。	
	浅口市全域	R2年度	イノシシ、 ヌートリア、 ハシブトガラス、 ハシボソガラス	484頭 192頭 — —	—	—	・猟友会の構成員で組織されている有害鳥獣駆除班が旧町(旧金光町・旧鴨方町・旧寄島町)ごとにくりわな、捕獲檻、銃器により捕獲を行った。各駆除班の活動に対して市からの捕獲報奨金交付により、捕獲意欲の向上につながっている。駆除班が協力的であり、スピード感をもって従事して下さっている。	145	124.9	367%	0.68	0.32	450%	・被害金額、被害面積どちらの目標も達成することができた。 ・有害鳥獣駆除班員の高齢化による減少や有害鳥獣増加及び活動範囲の拡大により駆除班員一人ひとりの負担が著しく増加している。そのため、駆除しきれないエリアが増加している。近隣市町村との連携も含め、効率的な駆除活動を継続できる体制整備を行う必要がある。 ・被害防止には捕獲が最善という意識が根強く、加えて農業者の高齢化による耕作放棄地の増加等、構造的な課題も抱えており、各個人での防護柵の設置に対しては消極的な場合が見受けられる。集落柵など、地域をあげて共同での設置を進める必要がある。		
	浅口市全域	R3年度	イノシシ ヌートリア ハシブトガラス ハシボソガラス	511頭 162頭 — —	—	—	—	・猟友会の構成員で組織されている有害鳥獣駆除班が旧町(旧金光町・旧鴨方町・旧寄島町)ごとにくりわな、捕獲檻、銃器により捕獲を行った。各駆除班の活動に対して市からの捕獲報奨金交付により、捕獲意欲の向上につながっている。駆除班が協力的であり、スピード感をもって従事して下さっている。	145	128.7		0.68	0.47		・被害金額、被害面積どちらの目標も達成することができた。 ・有害鳥獣駆除班員の高齢化による減少や有害鳥獣増加及び活動範囲の拡大により駆除班員一人ひとりの負担が著しく増加している。そのため、駆除しきれないエリアが増加している。近隣市町村との連携も含め、効率的な駆除活動を継続できる体制整備を行う必要がある。 ・被害防止には捕獲が最善という意識が根強く、加えて農業者の高齢化による耕作放棄地の増加等、構造的な課題も抱えており、各個人での防護柵の設置に対しては消極的な場合が見受けられる。集落柵など、地域をあげて共同での設置を進める必要がある。	

里庄町 (里庄町鳥 獣被害防 止対策協 議会)	里庄町	R元年 度		(緊急捕獲) イノシシ(成獣) イノシシ(幼獣) ヌートリア タヌキ アナグマ カラス類	33頭 3頭 15頭 3頭 1頭 —	—	—	—	ここ数年間でイノシシ等の有害鳥獣の生息数が増加しており、これまでに被害の なかった地域においても多くの被害が発生している中で、当事業により、これまで 以上の駆除捕獲活動が推進され、より精力的な駆除捕獲活動を町内全域で実施 することができた。 その結果捕獲対策等の迅速な対応により、特にイノシシの捕獲数が増加し、農地 の被害拡大防止に繋がった。 (参考H30: イノシシ23頭、ヌートリア21頭、タヌキ3頭、アナグマ4頭)	17	27.7		2.14	1.86	事業実施前と実施後で捕獲頭数は増加、被害 金額・被害面積は減少した。 鳥獣被害を防止するという目的は概ね達成され ていると思うが、今後も継続的に取り組む必要 があると考え。	積極的な捕獲活動により、 被害金額、被害面積ともに 目標を大きく達成できている。 今後も、防護と捕獲を組み 合わせた一体的な対策と 狩猟者の確保・育成の取組 により、被害減少につなげ ていきたい。	被害金額、被害面積ともに目 標を大きく上回る成果を上げ ており、捕獲数も増加傾向に あることから、今後も継続して 捕獲等鳥獣被害防止対策に 取り組んでいただきたい。	
	里庄町	R2年度	イノシシ(成 獣) イノシシ(幼 獣) ヌートリア タヌキ アナグマ カラス類	64頭 4頭 16頭 9頭 11頭 4羽	—	—	—	ここ数年間でイノシシ等の有害鳥獣の生息数が増加しており、これまでに被害の なかった地域においても多くの被害が発生している中で、当事業により、これまで 以上の駆除捕獲活動が推進され、より精力的な駆除捕獲活動を町内全域で実施 することができた。 その結果捕獲対策等の迅速な対応により、特にイノシシの捕獲数が増加し、農地 の被害拡大防止に繋がった。	17	33	421%	2.14	1.59	628%	事業実施前と実施後で捕獲頭数は増加、被害 金額・被害面積は減少した。 鳥獣被害を防止するという目的は概ね達成され ていると思うが、今後も継続的に取り組む必要 があると考え。			
	里庄町	R3年度	イノシシ(成獣) イノシシ(幼獣) ヌートリア タヌキ アナグマ カラス類	104頭 8頭 19頭 7頭 8頭 1羽	—	—	—	ここ数年間でイノシシ等の有害鳥獣の生息数が増加しており、これまでに被害の なかった地域においても多くの被害が発生している中で、当事業により、これまで 以上の駆除捕獲活動が推進され、より精力的な駆除捕獲活動を町内全域で実施 することができた。 その結果捕獲対策等の迅速な対応により、特にイノシシの捕獲数が増加し、農地 の被害拡大防止に繋がった。	17	9.3		2.14	0.74	事業実施前と実施後で捕獲頭数は増加、被害 金額・被害面積は減少した。 鳥獣被害を防止するという目的は概ね達成され ていると思うが、今後も継続的に取り組む必要 があると考え。				
奈義町 (奈義町有 害鳥獣被 害防止対 策協議会)	奈義町	R元年 度	イノシ シ ニホンジ カ カラス	(緊急捕獲) イノシシ ニホンジカ	185頭 817頭	—	—	—	捕獲数は毎年一定数あり、生息個体数の把握はできていないが、奈義町鳥獣被 害対策実施隊の積極的な駆除活動により、減少してきていると考える。また、地 域住民と実施隊が連携して駆除活動を行ったり、地区が主体となって防護柵の維 持管理を行うことにより、農作物の被害額減少に寄与している。より効果的な防護 柵の設置のために専門家派遣事業などを活用している地区もあり、町民の鳥獣 害対策についての意識も高まってきている。	120	155.6	79%	0.5	4.05	-220%	実施隊による駆除活動と地区主体による防護柵 の維持管理、またその連携によつて有害鳥獣 対策に効果的な方法であると思われるため、今 後も事業を活用して事業効果をあげていき たいと考えている。	被害の大部分を占めるイノ シシとニホンジカの捕獲頭 数が、被害防止計画期間 中に毎年1,000頭以上の一 定頭数が捕獲され、防護と 捕獲の連携による効果が 現れていると見受けられ る。 一方で、近年カラスによる 果樹園や畜舎への被害が 増加しているように見受け られる。 今後は、引き続き大型獣に よる対策の継続と、カラス 被害対策を進めていただ きたい。	被害面積は目標を達成できな かったが、被害金額は計画 作成時より減少しており、一定 の成果は上がっている。 シカ、イノシシによる被害面積 が増加しているほか、計画時 には被害面積の把握ができ ていなかったヌートリア、カ ラスによる増が見られるので、 それらに対する防護、捕獲の 強化を意識し、今後も引き続 き、地域による防護や捕獲の 対策に取り組んでいただ きたい。
		R2年度		イノシシ ニホンジカ カラス	114頭 666頭 120羽													
		R3年度		イノシシ ニホンジカ カラス	158頭 954頭 482羽													

岡山県	岡山県 全域	R元年 度	イノシシ ニホンジカ ニホンザル カワウ他	広域捕獲活動	カワウ協議会 カワウの生息状況調査及び漁業被害調査 内水面におけるカワウ被害防止対策 カワウ繁殖抑制試験 ニホンジカ生息状況調査	岡山県	-	100%	・カワウ協議会による防止体制の整備 ・カワウの生息状況調査及び漁業被害調査 ・内水面におけるカワウ被害防止対策 ・ドライアイスを用いたカワウ繁殖抑制試験 ・ニホンジカの生息状況調査	-	-	-	-	-	-	・カワウについては、漁業被害状況調査及び内水面における被害防止対策を専門家の指導により実施した。 ・ニホンジカ生息状況により今後生息数推定向上につながるデータ収集を実施している。 ・ニホンジカ、カワウ被害防止対策に向け生息状況調査結果を市町村への情報提供を行っている。 ・今後も農作物被害低減に向け、防護と捕獲一体となった取組を推進するために生息状況の情報提供を継続し行う必要がある。	カワウに関して実施されたドライアイスを用いた試験などは空気銃による捕獲を補完する対策として重要かつ大変興味深い調査であり評価できる。各地の被害・生息実態に合わせてこれらを含む多様な対策をどのように組み合わせれば効果的なのか等についても調査が進めば、より実際的な対策になってくると思われる。(岡山県猟友会事務局)	-
				人材育成活動	専門家職員の育成 鳥獣被害対策実態調査				・専門家育成のための資質向上研修会の実施 ・普及指導員による現地での鳥獣課題対策支援の実施 ・GPS首輪によるサル行動域把握及び効果的な追い払い等 ・わなや檻へのカメラ設置などICT等を活用した捕獲技術の実証展示	-	-	-	-	-	・鳥獣対策の専門家育成するために、県外研修への派遣を行った。また、実践研修として、普及指導員が現地で鳥獣被害対策支援を行い、資質向上が図られた。 ・また、その中で、サルについてGPS首輪装着による行動域把握による追い払い等を行い、実践技術が身についた。 ・檻にカメラを設置しICT等を活用した捕獲技術の実証を行った。	-		
				ジビエ利用拡大	処理勉強会 ジビエサミット参加 おかやまジビエPR				・捕獲獣処理に係る勉強会の開催 ・令和元年11月に開催されたジビエサミットへの参加 ・東京のアンテナショップでおかやまジビエをPR	-	-	-	-	-	・市町村担当者や処理施設等を対象に、捕獲獣処理に係る勉強会を3回行い、処理体制整備について話し合いができた。課題共有ができた。 ・ジビエサミットに参加し、優良事例や施策等の情報収集を行った。 ・令和2年1月に東京都港区新橋にあるアンテナショップでおかやまジビエのPRを行い、手応えを得た。	-		
岡山県	岡山県 全域	R2年度	イノシシ ニホンジカ ニホンザル カワウ他	広域捕獲活動 新技術実証 人材育成活動 ジビエ利用拡大	カワウ対策協議会 カワウの漁業被害実態調査 内水面におけるカワウ被害防止対策 ニホンジカ生息数推定調査等の実施 農業集落への生息状況アンケート調査 ニホンザル生息状況調査 専門家の育成 捕獲獣処理勉強会	岡山県	-	100%	・カワウ協議会による防止体制の整備 ・沿岸地域におけるカワウの漁業被害実態調査 ・内水面におけるカワウ被害防止対策技術の向上 ・ニホンジカの生息数推定 ・農業集落への生息状況アンケート調査 ・ニホンザル生息状況調査 ・専門家育成に向けた技術高度化研修等の実施 ・捕獲獣の広域処理等に関する勉強会	-	-	-	-	-	・カワウについては、漁業被害実態調査で胃の内容物などを調査した。また、内水面における被害防止対策を専門家の指導により実施した。 ・ニホンジカ生息状況により今後生息数推定向上につながるデータ収集を実施している。 ・ニホンジカの被害防止対策に向け生息状況調査結果を市町村への情報提供を行っている。 ・今後も農作物被害低減に向け、防護と捕獲一体となった取組を推進するために生息状況の情報提供を継続し行う必要がある。 ・約5,000集落への生息状況アンケート調査により、イノシシやニホンジカ等の生息状況と被害状況を年ごとに比較し、最近の傾向をつかみ、対策に活かすことができた。 ・ニホンザルについて、管理計画の更新のため、全県での生息状況調査を行った。 ・専門家育成に向けた研修会等の実施により、鳥獣被害対策技術の向上が図られた。 ・捕獲獣処理勉強会では、捕獲獣の衛生管理や広域集荷の検討、捕獲者との連携構築について勉強を行った。	猟友会の立場からは、いわゆる出口戦略については無関心ではおれず、その意味で捕獲獣処理勉強会は大変有意義と考えている。捕獲者側と市町村側でそれぞれできることは限られるが、その間を県が調整し、必要なインフラを整備して、捕獲から最終処理までの流れをスムーズにすることが、結果として鳥獣被害対策を大きく前へ進めることになると考える。(岡山県猟友会事務局)	-	
岡山県	岡山県 全域	R3年度	イノシシ ニホンジカ カワウ他	広域捕獲活動 人材育成活動 ジビエ利用拡大	カワウ対策協議会 内水面におけるカワウ被害防止対策 イノシシ・ニホンジカ生息数推定調査等の実施 農業集落への生息状況アンケート調査 カワウ生息状況調査 専門家の育成 新規狩猟免許取得者の担い手育成 捕獲獣処理勉強会「おかやまジビエガイド」の重版 イノシシ・ニホンジカ生息数推定調査等の実施	岡山県	-	100%	・カワウ協議会による防止体制の整備 ・内水面におけるカワウ被害防止対策技術の向上 ・イノシシ・ニホンジカの生息数推定調査 ・イノシシ・ニホンジカの捕獲計画の作成 ・農業集落への生息状況アンケート調査 ・カワウ生息状況調査 ・普及指導員の早期技術習得の支援 ・新規狩猟免許取得者の担い手育成研修 ・銃猟の担い手育成研修 ・捕獲獣の処理の勉強会実施 ・ガイドブックを用いた県産ジビエの消費拡大、新規販路開拓の促進 ・イノシシ・ニホンジカの生息数推定調査	-	-	-	-	-	・カワウについては、被害減少に向けた取組の強化を図るための協議会を開催した。また、内水面における被害防止対策を専門家の指導により実施した。 ・イノシシ・ニホンジカ生息状況により今後の生息数推定の向上につながるデータ収集を実施している。 ・イノシシ・ニホンジカの被害防止対策に向け生息状況調査結果の市町村への情報提供を行っている。 ・今後も農作物被害低減に向け、防護と捕獲一体となった取組を推進するために生息状況の情報提供を継続し行う必要がある。 ・約5,000集落への生息状況アンケート調査により、イノシシやニホンジカ等の生息状況と被害状況を年ごとに比較し、最近の傾向をつかみ、対策に活かすことができた。 ・カワウについて、今後の防止対策の基礎資料となるデータが得られた。 ・専門家育成に向けた研修会等の実施により、鳥獣被害対策技術の向上が図られた。 ・新規狩猟免許取得者を対象とした鳥獣捕獲技術伝承研修の実施により、鳥獣被害対策の担い手を育成した。 ・新規第一種銃猟免許取得者等に対し、銃猟に関する研修を実施し、基本的な知識から実践的な技術の習得につながった。 ・捕獲獣処理勉強会では、捕獲獣の利活用対策としてペットフード利用の現状と展望について情報交換を行った。 ・県産ジビエの消費拡大や新たな販路開拓のため「おかやまジビエガイド」を重版した。 ・イノシシ・ニホンジカ生息状況により今後の生息数推定の向上につながるデータ収集を実施している。	農作物等の鳥獣被害防止対策を推進するためには、捕獲事業の強化、捕獲従事者の育成・確保、出口対策としての処理加工の推進などの一連の施策を、県や市町村、関係団体等が連携して総合的に取り組んでいくことが重要と考える。県にリーダーシップをとっていただき、体制整備や担い手育成、捕獲獣処理の勉強会、県産ジビエの消費拡大などの取組の一層の強化をお願いする。 また、近年、イノシシ・シカの捕獲頭数(狩猟・許可)は増加しており、推定生息数も減少傾向にある一方で、市街地等への出没が見られるなど、生息域の拡大が懸念される。こうした中、県が策定している第二種特定鳥獣管理計画に定める管理目標の達成に向け、各種施策を展開する上で、生息数を調査することは、必要と見られる。(岡山県猟友会事務局)	-	

5 都道府県の総合的な意見

県全体での被害金額は令和3年度で、約2.6億円と微減傾向だが、依然として高い水準で推移している。各市町村の有害鳥獣の対策強化から対象鳥獣の捕獲頭数数は増加傾向にあるが、被害の減少に向けては、引き続き捕獲を向上させるとともに、防護柵を設置した地区については、農作物被害は減少するものの、防護柵を設置していない地域において、被害の増加が見られる場合が多いことから、今後も防護と捕獲の一体的な取組の継続が必要と考えられる。  
また、専門家と連携し効果的な対策を実施する必要がある。  
今後は、野生鳥獣被害の防止に向け、農作物等を鳥獣から守る「防護」と有害鳥獣の「捕獲」、捕獲獣の「利活用」を支援するとともに、第二種特定鳥獣管理計画に基づき、シカやイノシシの生息数の減少に向け、捕獲の強化を図るなど、鳥獣被害防止対策を強力かつ効率的に実施するとともに、狩猟免許取得への助成や試験制度の改善、若手狩猟者の技術向上を進めるとともに、集落ぐるみでの捕獲体制の整備などにより、鳥獣被害対策を進める人材確保・育成対策を強化する。